

「令和7年度大阪府SDGs有識者会議」(第1回) 議事概要

■日 時：令和7年10月30日(木) 13時00分から15時00分

■有識者：(五十音順)

- ・今井 健 氏 (国際協力機構 (JICA) 関西センター 次長)
- ・川久保 俊 氏 (慶應義塾大学 理工学部 准教授)
- ・草郷 孝好 氏 (関西大学 社会学部 教授)
- ・村上 芽 氏 (株式会社日本総合研究所 チーフスペシャリスト)
- ・柳川 雅嗣 氏 (吉本興業ホールディングス株式会社
コーポレート・コミュニケーション本部)

■次 第：1. 令和7年度の事業報告・予定について
2. 令和8年度以降の事業予定について
3. その他

■議事録

(村上 芽 氏)

「府自らの取組みの推進」をした結果、どうなっていったかについて、来年度の進捗で改めて総括、分析していく必要があると感じている。

(事務局)

府のこれまでの取り組みがどのような成果に繋がり、SDGs のどのゴールに影響を与えるかについて、来年度分析できればと考えている。ただ、ゴール自体が大きな目標のため、大阪府の取組みだけでプラスになるものもあれば、その他の要因が大きいものもあるため、委員の皆様のご意見を聞きながら分析していきたい。

(草郷 孝好 氏)

最初のスライドにある「大阪SDGs行動憲章」は、大阪・関西万博が強調されている。第一に行動憲章を踏まえて評価をしなければいけない。また、万博が終わったため、行動憲章を改定するかどうかを検討する時期に来たのではないか。

評価をするときは、地域社会や環境に配慮して行動したのかとか、できることから意識して行動していくという人が増えたのか、など、この辺りはSDGs宣言プロジェクトとも連動しているところなので検証していただきたい。大阪府がSDGs宣言を集めた結果の項目も欲しい。

また、大阪府が指標をどう活用されるのか。指標の見直しをすると、どんな形で活用するのか、出発点として大阪府が作った独自の評価指標の仕組みを活かすのか、あるいは新しく

変えるのかという点を確認したい。

（事務局）

指標の活用については、3つの切り口があると思っている。1つ目は、前回使った内閣府の指標分析。ただ、内閣府の指標も入れ替わりがあるため、単純な比較ができなくなっている。これらの指標は川久保委員の研究室でデータを公表いただいているので、参考にさせていただきたい。2つ目が、データブックで使った指標の活用。国連の機関が開発した指標であり、信頼性のあるデータだと考えており、これを使うことも視野に入れている。3つ目は、この有識者会議でアイデアをいただいた、笑いやウェルビーイングの指標。これは参考資料にあるSDGs認知度と一緒に半年に1回調査を行っており、参考資料として見ていきたいと考えている。

（今井 健 氏）

9月15日の万博イベントで「私のSDGs宣言」を1,139件集め、これまでと合わせて8,000件以上集まっていると思うが、これらの宣言を今後どう活用してどう利用していくのか、また、いただいた皆様に対してどうフィードバックをしていくのか。きっかけという意味では、非常に良い取組みだと考えるが、例えば令和8年度にどう繋げていくのかなど、お考えがあればお聞かせいただきたい。

（事務局）

SDGs宣言の活用は我々も課題と認識している。企業からは、社名や連絡先などの情報を取っているが、個人に関しては、参加のハードル下げるため個人情報を収集していない。今回、新たな取組みとして、川久保委員にこれまでの宣言を分析いただき、SDGsフォーラムで発信していただいた。川久保委員の分析結果を広くシェアすることによって、新たな展開が見えてくるのではと考えている。一方で、分析にあたっては一定の属性情報が必要というご指摘もいただいた。属性情報の収集にあたっては、現在、立命館大学の学生と、二次元バーコードを活用したSDGs宣言の収集に取組んでおり、性別や年齢などを取得できないか検討している。まずは分析できる属性情報を集めて分析し、公表することで、次の展開を生んでいくといったことを考えている。

（川久保 俊 氏）

今回、「私のSDGs宣言」のデータを分析させていただいて改めて思ったのは、SDGs宣言は大阪府の財産であり、非常に重要なナラティブなデータとなっていること。客観的な統計データと、客観的に定量化しづらい府民のナラティブなデータを両方保持しているのは、強いところだと思う。これらをバランスよく活かし続けることが重要だと思っている。自治体SDGs指標を活用したフォローアップは、国の統計データに依存するため、国が統計を取ってから2、3

年のタイムラグがどうしても出てしまう。毎年、フォローアップを実施することは労力の割に成果が出てこないと考えられるので、目的にもよるもの、概ね 2、3 年に 1 回ぐらいで十分ではないか。一方で、先ほどの笑いのデータをはじめとした認知度や、府民の方々の感性、行動意欲といった項目をアンケートで取り続けることは毎年できるものなので、これらについてはきちんとフォローアップしていけばよい。府民を対象にしたアンケートは、取得する項目を変えられるので、今後必要なデータは何かについて聞くのも重要。

あとは、宣言データというナラティブなデータをどうやって今後活用していくかを検討していかなければいけない。宣言データをただひたすら蓄積していくだけでは、もったいない気がしている。先ほど個人情報の話が出たが、設問フォーマットの改善で対応できることもあると思う。いずれにせよ 2030 年の後を見据え、どういう形で改善していくかということをこの場で議論していければいいと思っている。

（事務局）

我々が実施している調査は 1,000 人規模のインターネット調査になっており、全項目経年変化を見ているが、改善が必要な項目もあると考えており、委員の皆様のご意見いただきながらより良い質問項目へ変えていきたい。

（川久保 俊 氏）

今の SDGs は 17 ゴールだが、府民の方から、「SDGs にもっとこういう観点があつたらいいのではないか」というものを聞き、それらをデータとして取り纏めて大阪府からビヨンド SDGs に向けてインプットしていくのも良いのではないか。実際に豊田市では 1~2 年前に、次世代育成や芸術振興といった 2 つの観点を、豊田市の独自ゴールとして市長が世界に発信している。大阪府も独自の視点や観点で発信していくとよいのではと思う。

（事務局）

足りない観点の聞き方は自由形式か、ある程度事前調査してから選択質問にすべきか。

（川久保 俊 氏）

こちら側から選択肢を提示すると限られた範囲で回答することを強いる形になってしまうため、それでは勿体ないと感じる。まず自由回答で多くご意見をいただいて、次の段階から選択形式にしてもよいのではないか。

（村上 芽 氏）

大学生に対して、「2030 年以降に何を頑張りたいですか」とアンケートをとっているが、回答が講義内容に引っ張られている印象。ただ、中にはそうではないことを書いてくる学生もいる。世の中で言われる「今の SDGs に足りないもの」は 10 個程度。選択肢としては多い方だと

思うので、そこまで恣意的にもならないのでは。

例えば事業者に本当にマイボトルにしているか、ペットボトルの量が本当に減っているかを思い切って聞いてもよい。

政策論を申し上げると、分析などの取組みの上にくるのは、やはり政策そのものをどうするかだと思っており、例えばブルーオーシャンビジョンの次の取組みに繋がったり、個別の政策に反映されたりしないと、ふわふわしたものになってしまう気がする。一連のデータの話や行動変容の話を踏まえ、政策をどうするのかという話に繋げて欲しいと思う。

（草郷 孝好 氏）

ウェルビーイング指標について 2 点気になるところがある。1 点目は「笑い」と「不安」の相関係数。「すごく笑っている人でも不安な人がいる」ということであり、笑いの指標の使い方を整理しておかなければならぬ。笑えばいいんだとか、スマイルあふれる街だったらいいんだという指標にするのであれば、それでよいのかどうかを考え直さないといけない。また、SDGs フォーラムでの蟹江さんからの指摘には、大阪府こそしっかりとローカルレビューをやって欲しいという思いが込められていたと思う。役所的な報告書ではなく、府民にわかりやすいレビューをして欲しいと思う。大阪府は SDGs を推進してきたわけだが、究極どこに行くのかというと府民の生活の改善だと思う。レビューのためのワークショップなど、府民に来てもらって意見を聞く場を設定するといいのではないか。あくまでも中心になるのは府民であって、資料の 15 ページに出てくるネットワークの図を見ても府民が抜けている。府民が図の真ん中に入るべきではないかと思う。2 点目として、質問だが、毎回添付されている参考資料のアンケートデータは、同じ質問項目で聞いてきているのか。

（事務局）

質問項目は 2021 年からほとんど一緒。先ほど話題に上がった笑いやウェルビーイング指標が前回追加されたもの。過去に一度、「行動していますか」という質問を組み込んだことがあるが、予想に反して大半が「実施している」という結果だったため、以降は設問から除いた経緯がある。行動しているかどうかを把握したいと思っているが、皆やっていると回答が出てくるので、その辺りをうまく拾える工夫ができればと考えている。万博が終わったタイミングでもあるので、質問項目を見直す検討も必要だと考えている。

（草郷 孝好 氏）

気になったのが、最終ページの「SDGs を意識して行動していること（主な意見）」の部分。短い期間で見ると変わらないかもしれないが、初期のころから追うことで変化の傾向がわかるかもしれない。最初の頃からのどのように変化してきたか、などを見ることができるので、価値のあるデータだと思う。

（川久保 俊 氏）

先ほどの議論の中で、アンケートで「行動していますか」と聞くと、みんなが「取り組んでいます」と回答する課題があったが、改善する方法はいくつかあり、5段階ぐらい分けることを提案したい。例えば1つ目の段階は、SDGsを勉強して理解しているレベル。レベル2は、これまで行ってきた自身・自己の取組みとSDGsの紐付けができるレベル。レベル3は、将来自分がやりたいこと、夢とかビジョンをSDGsに紐付けて、目標を持っている状態。レベル4ぐらいになってくると、2030年以降も含めて自分が実現したいことに向けて具体的な行動を起こしているレベル。レベル5は、さらにその取組みを日々振り返りながら、PDCAサイクルを回し、自分のことを分析しながら着実に前進させ続ける段階。

この例をそのまま適用すると、学術的なアンケートっぽくなってしまうので、府民アンケートにそのまま採用できるかは別の話だが、取組みができているかを聞くのであれば、回答の解像度（レゾリューション）を合わせるために、ある程度の基準のようなものを示しつつ聞いた方がよいと思う。

（事務局）

前回は「常に行動している」と、「たまに行動している」という聞き方をしていた。ご提案を踏まえ検討していきたい。

府民を巻き込んでいくという部分について、吉本興業様のこれまでの取組みや今後実施される予定のものなど、ご紹介いただきたい。

（柳川 雅嗣 氏）

万博の中で、ホクレンさんと気候変動に関する取組みを実施した。若者に人気があるホクレンさんのAIのキャラクターを活用してPR発信したもので、国連パビリオンに、大阪で知名度がある漫才コンビを呼び、一般の方と一緒に気候変動に関するVTRを見たりするイベントを実施した。一般の方に考えが近い芸人が参画することで、興味の無かった若者にも気候変動のことをわかってもらおうきっかけづくりとなった。そのようにどちらかというと、あまり興味がない、ほとんど興味がないような方に対して、少しでも関心を持っていただけるような取組みを実施している。

（事務局）

JICA 関西様も「私の未来宣言」というカタチで一般の方から宣言を収集されていると思うが、一般の方向けに実施されたイベントなどあればご紹介いただきたい。

（今井 健 氏）

万博に絡め、兵庫県が「ひょうごフィールドパビリオン」というイベントを実施され、JICA 関西もフィールドパビリオンの一つとして認定してもらった。フィールドパビリオンでは、兵庫県のいろん

なところが SDGs はどう取り組んでいるのかを発信した。JICA では、関西として SDGs はどう取り組むのかということをまず知つてもらう「認知」の部分に取組んだ。

私の未来宣言は、「私のえがく未来の世界は」、「そのように考へるのはどうしてですか？」「その世界のために、私にできることは」という三つの設問から構成されている。最初はほとんど集まらなかつたが、私どもの拠点がある HAT 神戸の秋祭りなどのイベントに絡めて、宣言を考へて書いてもらつた。まさに大阪府と同じように、手書きでお子さんがお絵かきをする感覚で書いてもらつてある。デジタルデバイスを使った宣言の収集もしているが、単発でやつてもなかなか人が集まらないため、地区にあるイベント等に出展するというカタチがよいと思っている。

（村上 芽 氏）

やる気のある学生のプレゼンというのはすごくおもしろいと思うが、参加ができない人たちの声をきちんと集めて欲しい。身近なところでいうと、買物でどう行動するか、SDGs を意識して選ぶのか、というようなことが大事と思っており、これに繋がるようなコンテンツを継続的に実施できればと感じた。今後実施するイベントに向けて、全部が繋がっているというロードマップ的なものを作つてはどうか。

（草郷 孝好 氏）

来年実施するフォーラムは誰のためにやるのか。そして来年だけやるのかを聞きたい。

（事務局）

来年だけではなく、2030 年に向けて継続して開催していきたいと考えている。誰のために実施するのかという点については、一番はみんなで、オール大阪で SDGs を達成するために集まりたいと考えている。その結果として SDGs アクションが加速化され、より良い大阪が実現されると思っている。また、大阪だけ良くなればいいということではなく、他の地域の方々とも一緒になって、進めていければいいと考えている。そういうことで「世界に貢献」や「大阪が世界をリードして」という部分にも繋げていくことができると思っている。

（草郷 孝好 氏）

継続して開催していくことが確認できたので、それを前提に意見を言うと、一番気になるのは資料 15 ページのネットワークの図の中に府民が入つてないこと。全てが府民のためということではないとは思うが、府民のためという観点は外せない。府民が参加できるような機会にすることが大事だと思う。

（川久保 俊 氏）

今の草郷先生のご提案はすごくいいと思う。ピッチだとお互いに刺激を受け合う。凄く前向きな方が集まるので、パワーをもらえ、その場が盛り上がると思う。さらにプラスできると思う要素

がないか考えた際に、ふと横浜市の「環境絵日記」の件を思い出した。横浜市では毎年「夏休みの期間中に SDGs の何番に関連する行動をとりましたか？」ということを、絵日記として提出してもらい、それを展示場みたいなところで貼り出すという取組みが行われている。そうすると自分の子供たちが描いた絵日記が掲示されるので、親御さんも、場合によっては祖父母も、展示を見に行くということになり、和気あいあいとした雰囲気の場所になる。例えば SDGs 宣言についても似たような展示ができるといいかもしれない。

（村上 芽 氏）

絵日記掲出の案に関連して、全国読書感想画コンクールを紹介したい。読書感想文ではなく、感想画という絵のコンクールもある。「絵を見て感動する」、「一目でわかる」ということはすごく大きいことだと思う。人前でプレゼンとなると凄くかっこいいことをしなければ、と思う子が出てきてしまい、やりたい子とやれない子の差が大きくなってしまうと思う。こうした取組みがネットワークの中にあるようであれば、それもフル活用すると良いのではと思う。

（柳川 雅嗣 氏）

イベントのことで、吉本興業の例で言うと、ビジネスも一緒だと思うが、子どもに関心を持ってもらいたいというところは強い。ファミリー層をどれだけ取り込めるか。土日に開催され、コストパフォーマンスが良く、子どものためになるんだったら、というものは比較的ファミリー層が集まるてくる。エコバッグとかマイボトルという部分はある程度認知されているが、その上のステージと言うと、例えば、地産地消。雇用、輸送に関する CO₂ の削減にもなっていて、1 個上のことをしっかりとやることによって、子どもたちの SDGs に関する知識が上がり、その子どもが小・中学生になったときに、もっと興味を持つてもらえるようになるのではないかと想像しながら、イベントをやるといいのではないかと思う。

（今井 健 氏）

運営する側の立場で考えると、「開催時期」というもの重要なと考える。毎年この時期に大阪府として実施できるのかというところを考えておかないといけない。大阪府だと 4 月、3 月は難しいと思う。12 月、1 月、2 月などの冬と考えるとインフルエンザの流行があり、夏場の 7 月、8 月は暑くて難しいとか。集客ができる時期はいつかを考え、その上で、SDGs の達成度分析がいつできるのか、アンケートはいつ取り纏められるのかなど、多くの要因を考えて実施時期を考えないといけない。現実的に考えて 9 月、10 月あたりになるかと思うが、9 月、10 月は多くのイベントが重なるシーズンもあるので、他のイベントと連動することで負荷を減らすこともできると思うので、その視点も検討いただければやりやすくなると思う。

（草郷 孝好 氏）

大阪府には府民が参加できるようなイベントを実施している部署はあると思う。そことタイアップ

普すればいい。そういう連携はまさに SDGs のゴール 17。これまで声を掛けても、来なかつた人がちゃんと入れるようにした方がいいと思う。今までイベントを「フォーラム」という言葉を使っているが、話を聞いているとそれは文化祭的な要素がある。そうであれば「フェスティバル」のような、もう少し府民が参加しやすい名称の方がよいのではないか。これまで一生懸命、全国レベルでフォーラムとしてやってきたが、もう少し府民にわかりやすく平たくするための工夫も欲しい。

（村上 芽 氏）

9月4日のビヨンド SDGs 官民会議に東京の同僚が参加した。関東で開催する官民イベントは企業の参加が多いようだが、今回の大坂開催では市民団体が多く驚いていた。これまで「府民がいない」という話だったが、東京から来た人から見ると、市民団体がたくさんいるように見えたそうで、その辺りをどう受け止めているのか聞きたい。

（事務局）

ビヨンド SDGs 官民会議に、多くの市民団体の方が登壇された印象。我々の感覚としては市民団体が多く来たというよりは、全国から様々なステークホルダーが参加されていた印象。質疑応答の時間で質問をしていた方は、すべて市民団体の方だった。

（草郷 孝好 氏）

話は戻るが、大阪の指標は「笑い」を中心にするのか。アンケートの質問が、「幸せ」と「不安」は「昨日」の問い合わせになっている。これは「昨日」を入れないといけないのか。昨日に限定すると、昨日喧嘩したとか特定の出来事に左右されてしまう。1週間で聞くとか今後継続するなら、質問の対象期間を整理した方がいい。

（川久保 俊 氏）

私が補足すると、これは「ONS4」というイギリスの政府が実施しているアンケート調査を活用している。「ONS4」を作るにあたり、世界中のウェルビーイングの調査を見た上で作られており、既往研究に基づいて設定されている。ここでの意図としては、長期的なウェルビーイングと、日々変動するようなショートスパンの気持ちの浮き沈みみたいなものを両方捉えるためのアンケート調査票となっている。今は、国際的なウェルビーイング指標との整合や、世界の中で大阪府民のウェルビーイングを比較・検証できるようにするために文言を合わせている状況。大阪独自できちんと意味のあるデータを取るというのであれば、思い切って変えてしまう手もあると思う。

（事務局）

国内で「ONS4」を採用している自治体を確認できていないため、「どこと比較するのか」とい

う課題は残るが、世界と比較ができるようにだけはしておこうという判断で「昨日」を採用しているところ。

(草郷 孝好 氏)

私が気にしたのは笑いと不安の相関が何故ここまで低いのか。問い合わせに問題があるのではないかとの仮説を持った。本来、正確にデータを取るのであれば、昨日一日の中で数時間おきに「今幸せですか」というように徹底してデータを集めないと、その変動が取れないはず。イギリスと同じ項目を全部使って大阪モデルとして現実のダッシュボードと比較するのであればいいが、そうではないのなら注意した方がいい。6項目の中の一つを活用したということは、あくまでパートに過ぎない。そのパートだけを比較する使い方でいいんだろうかと疑問を持つので、この点を整理した方がいい。比較したいのであれば、6項目全部のデータをとってもいいと思う。

(事務局)

単純な相関関係で出すものではないという指摘もあったが、大阪らしい項目として、コラムで試行的に出したもの。先ほどの「笑い」以外のやり方もあると思う一方で、「笑い」は大阪にとって非常に重要なデータと認識しているため、見せ方の部分も含めて、引き続き、ご意見をいただきたい。

(草郷 孝好 氏)

大阪府内にSDGs未来都市は10個ぐらいあると思うので、そこと連携すると府民と接近しやすくなるのではないか。SDGs未来都市とは連携しやすいと思うので、タイアップしたり、彼らがやるところで、大阪府の取組みを少し入れてもらうなどの形もあったらいいのかなと思う。

(以上)